

フイットと推定されている。

ボラー・ガス社がY字型ルートを提案したのは、前述のように海底パイプライン敷設の技術が進歩したおかげ。同社では一九七六年と七八年に深さ約千三百フイットの海底にパイプラインを敷設したが、今度は千八百フイット以上の深さまでもっていく計画だ。

ただYルートには大きい問題がある。それができると、マッケンジー・デルタと提案中のアラスカ・ハイウェイ・ガス、パイプラインをつなぐテンプスター・パイプラインの必要性がなくなることだ。

もしテンプスター・パイプラインの敷設がとり止めになると、カナダは米国との協定により、米国の補助金がもらえなくなってしまう。

北極パイロット・プロジェクト

ごく簡単にいえば、液化した北極の天然ガスを、スーパータンカーでカナダ東部沿岸に運ぼうというのがこの計画である。カナダでも有数のドレック・ポイント・ガス田（メルビル島）埋蔵量五兆立方フイ

ット）にある八本のガス井からとれた天然ガスは、まずパイプラインで百六十キロメートル離れた同島フリッドポート入江に建設された加工・貯蔵・荷積み施設に送られる。天然ガスは、そこで液化され、液化工場隣接のバージ（はしけ）に塔載した貯蔵施設をへて、砕氷LNGタンカーに積まれる。タンカーはいろいろな海峡を通りながら東へ進み、バフィン島北方で南へ方向をかえる。ノバ・スコシアのカンソー海峡、ニュー・ブランズウィックのローンビル、あるいはセント・ローレンス川に入ったタンカーは、ターミナルでLNGをおろす。LNGはそこでガス化され、パイプラインを通じて北米各地へ運ばれる……。

このプロジェクトが「パイロット」と呼ばれているのは、北極からの天然ガス輸送計画としては通常の十分の一の規模に抑えてあるからである。規模を縮小することによって、工事の遅延、環境への影響、経費超過などの問題を少なくするという。

輸送船については、北極クラスの基準を上回り、年間を通じて決められたコースを運航できるよう、これまで三年間も研究が重ねられてきた。その結果、全長千フイットを超え、三十億立方フイットのLNG（カナダ全体の二日分の需要）を積める大型砕氷タンカー二隻が必要だということが分った。それぞれが、年間十二ないし十四回、メルビル島とカナダ東部沿岸を往復する。

このプロジェクトが実施された場合に

大型タンカーの運航にあたるメルビル・シッピング社によると、将来、東部カナダ向け二隻、米国東部へ二隻、ヨーロッパへ二隻周航させても、メルビル島の天然ガス埋蔵量は新しい発見がなくても四十年間は大丈夫だという。

北極パイロット・プロジェクトには、

北米一の地下発電所 ジェームズ湾地区で発動

北米最大の水力発電所であるケベック州ジェームズ湾地区のLG2発電所が、去る十月二十七日から電力生産を開始した。ルネ・レベック州首相が開所式でスイッチを入れ、最初の発電機を始動させた。同地区で予定されている四つの巨大なダムのうち最初に完成したLG2は、全部で十六基の発電機をそなえ、その既設発電能力は五百三十二万八千キロワット、年間電力生産量は三百五十八億キロワット時に達する。

LG2は、ハイドロ・ケベックによって建設され、予定よりも早く完成した。ハイドロ・ケベックは、一九六三年にケベック州政府が州内の民間電力諸会社を市価で買収して設立された会社で、百二十八億ドルという巨額の資産を有し、全業種を通じてカナダ最大の企業となっているだけでなく、北米随一の電気事業者にもなっている。

一九七七年のケベック州の総既設発電

メルビル・シッピング社のほかに、国営石油会社のペトロ・カナダ社とアルバータ・ガス・トランク社が参加している。

一九八三年に完成の予定。（Construction Alberta News Ltd.発行のIn-Site誌より転載）

能力は二万五百メガワット（一メガワットは千キロワット）であったが、このうち一万千六百メガワットが水力発電によって生産された。一九八五年までにハイドロ・ケベックのジェームズ湾電源開発プロジェクトその他の施設が完成すると、水力による州内の電力生産量は二万二千九百メガワットに倍増し、総既設発電能力は、三万二千六百メガワットに達する見込みである。ジェームズ湾地域に建設される四つの発電所だけで、総発電能力は一万六千二百九十九メガワットになる予定である。

これら四つの発電所は、いずれもグラント川に位置しているため、ラ・グラン・コンプレックスと呼ばれる。世界でも最大級の水力発電開発である。ブラジルのイタイプ計画（年間発電量七百億キロワット時）に次いで、ジェームズ湾水力発電開発が世界第二位、年間六百八十億キロワット時の電力を供給する。北米



カナダの石油・天然ガス埋蔵地域